横浜市立相沢小学校

学校だより

７月号

R 元.6.28

お宝いっぱい、相沢のまち

校長　海老澤　孝代

モンシロチョウにアゲハチョウ、カイコと３年生の教室がにぎやかです。モンシロチョウは畑のお助けマンとして、２・３年生がお世話になっている常見さんの畑から卵や幼虫を見つけてきました。常見さんは毎年３年生の学習用にキャベツを植えてくださっています。子どもたちはカイコのための桑の葉を、兄姉や上級生から教えてもらい毎日せっせと摘んできています。アゲハチョウの卵や幼虫もまち探検中に見つけたようです。まち探検では、建物・道・自然・人に視点を当ててたくさんのことを発見し、『あいざわのまちのたからもの』として地図にまとめていました。蔵や石碑・神社やお寺、広くて真っすぐな道と平らな土地、反対に坂道やくねくねと細い道、竹林・樹木園・川・ウグイスの声・チョウやミツバチ、掃除している人や優しいお母さんたち、見守りで声をかけてくれた人、工事の人や畑で働く人・・・・・。子どもたちは相沢のまちの宝物をたくさん見つけてくれました。

４年生は、水の学習から学校の横を流れる「和泉川」について調べています。この和泉川の源流は瀬谷市民の森の中にあります。この瀬谷市民の森の源流付近ではホタルを見ることができるのです。そこで、横浜ほたるの会の田中先生に話を聞くことになりました。『水辺は「生き物のゆりかご」と言われるくらい多様な生き物の宝庫です。水辺を守ることは、自然環境を守ることにもつながる。ホタルが生息できることは、きれいな水があり、上陸する陸地が汚染されておらず、成虫になったときに光を放てる環境があるということ。豊かな自然があるバロメーターです。』と。

早速職員も「ホタルの夕べ」と称して、田中先生のガイドで瀬谷市民の森に出かけました。交通量の多い道路から一歩森の中に入ると、車の音も小さく遠くになり次第に私たちの足音だけとなりました。赤いセロファンをかぶせた懐中電灯を頼りに森の奥へ奥へと進んでいくと、やがて・・・・ぽわ～んと、小さな光が二つ三つと見えてきました。『わぁ、ホタル！』木々の間からホタルのかわいらしい光が見えます。更にせせらぎ沿いを進み少し開けた場所に出ると、ホタルがそこここにたくさん光っています。こんなに素敵な場所が相沢小学校の近くにあるなんて。しばらくはホタルの光をただただ見つめていました。本当に感動しました。

このように、相沢のまちには大切にしたい人や歴史・環境など、お宝がいっぱいなのです。子どもたちと共に、まだまだお宝を見つけ、守り伝えていきたいと強く考える機会となりました。

学びあい　認めあい　支えあい
夢をはぐくむ　あいざわっ子